

5

一、つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 作文を書いたとき、先生は、「ここは、漢字になおさない」と言われても、漢字になおさないときがあるでしょう。② それは、漢字をよくおぼえていないからです。③ 漢字を自由につかって文章を書くには、字の形ど、字の読みかたを知っていないならなりません。④ しかし、これだけでは、まちがった漢字をあてはめてしまうことがあります。⑤ そこで、字の意味もはっきりおぼえなければなりません。⑥ これらのことから考えると、漢字を正しく使うには、字の形と読みか

一 上の文章を三つに分けるとすれば、②の終わり「のほかにどこでくればよいですか。もっともよいものを二つの中から一つえらび、その記号を□の中に書きなさい。」

- ア ①の文の終わり
- イ ③の文の終わり
- ウ ④の文の終わり
- エ ⑤の文の終わり

□

二 上の文章で、筆者がもっとも言いたいことをまとめて言っている文の番号を、□の中に書きなさい。

□

- 8 -

たと意味をしっかりと覚えておくことがたいせつです。

3 この文章の「題」として、もっともよいものを二つの中から一つえらび、その記号を□の中に書きなさい。

- ア 漢字のれんしゅう
- イ 先生の注意
- ウ 漢字を正しく
- エ 作文を書くには

□

二、つぎの文の——のことは、文中のどのことをくわしく説明していますか。(例)にならつて

□の中に、そのことを書きなさい。

(例) 子どもたちが 楽しそうに 校庭で ドッジボールをして 遊んでいます。

楽しそうに——遊んでいます

北の方から ゆうゆうと 大きなくじらが 泳いできます。

ゆうゆうと——

□

- 9 -

2 船は あかるい 広々とした 海を おきに向かつて 進んでいます。

あかるい

三、つぎの文から主語と述語をぬきだし、(例)にならつてそれぞれ□の中に書きなさい。

(例) 南の方から 夕立が さっと 降ってきました。

風にのつて 白い 雲が 南の方へ すいすいと 流れました。

夕立が——降ってきました

雨の 日には おかあさんが かさを持って 校門のところで まっています。

——

四、つぎの詩を読んで、下の問いに答えなさい。

くるしそうな顔。

① 黒板いっぱいにひらがな

おかあさんの顔

あおいひたいから

つめたいあせが ポタポタおちる。

あたまをふるたびに

水まくらがコボコボなる。

おかあさんが よんだ。

「ヤスヒロちゃん」

きつと おかあさんだ。

「すぐかえるよ、きょうは五時間だ。」

ぼくは、心の中でさげんだ。

はつと、気がつくど先生のこわい目が

にらんでいた。

② 一日は、ながいなあ。

① 「黒板いっぱいにひらがな、おかあさんの顔」というところで、どんなようすがわかりますか。つぎのあくすつの中からもっともよいものをつつえらび、記号を□の中に書きなさい。

ア、おかあさんにはいる先生が、くるしんで いるようす

イ、ぼくが、じゆきよう中ねむつてしまい、お

かあさんのゆめをみてるようす

ウ、むすかしい勉強なので、ぼくが、おかあ

さんにたすけをもとめているようす

エ、ぼくが、おかあさんのことで、頭がいっぱ

いになっているようす

オ、先生が、黒板に、おかあさんにてる人の

絵をかいているようす

□

- 11 -

- 10 -